

1 小林家・リビング（夜）

一軒家のリビング。白で統一された高級家具が置いてあり、棚の上に白いだるまが置かれている。

小林光輝（12）、ダイニングテーブルで算数を勉強している。

テーブルの上には、中学受験用の教材が重ねて置いてある。

小林久美（35）、光輝の隣に座り勉強をみている。

久美、問題を指さしながら、

久美「光輝、そこ。また間違えてるよ。この前も言ったでしょ」

光輝「……母さん、トイレに行きたい」

久美、時間を確認し、大きな溜息をつく。

久美「またなの。さっきいったじゃない」

光輝「でも……」

久美「分かった。行ってきなさい」

光輝、トイレに行く。

久美、その後ろ姿を見る。

2 小林家・玄関（夜）

久美、玄関に正座し、待っている。

小林孝雄（41）、玄関のドアを開けて黙ったまま入ってくる。

久美「おかえりなさい」

久美、孝雄のカバンを受け取り、靴をそろえる。

孝雄、スーツを脱ぎ、久美に渡しながら、

孝雄「光輝は何してる」

久美「算数の問題が終わらなくて、まだ解いています」

孝雄「またか……」

孝雄、久美の髪を掴み上げて、

孝雄「お前はちゃんと教えてんのか？」

久美、痛みで顔をゆがめ、髪を押さえる。

孝雄「明日は、俺が見るからいい」